

東京女子医科大学看護系
同窓会会報 VOL.25



Vol.25 特集

- 看護学部活動紹介「OHANA」
- 看護専門学校「ホームカミングデー」
- 第25回看護系同窓会定例総会報告



発行年月日 2025年10月15日
発刊 東京女子医科大学看護系同窓会事務局
〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1
東京女子医科大学巴女子学生会館2階
office@twmu-nursing-aa.jp



第9期会長就任挨拶

三輪 生子

(短大4回生/修士課程1回生)
東京女子医科大学看護系同窓会

この度、第9期東京女子医科大学看護系同窓会会長を拝命いたしました、三輪生子です。皆様には、日頃より同窓会活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

同窓会との出会い、そして歩み

私ども看護系同窓会は、2001年に看護短大の閉校に伴い、東京女子医専産婆助産師養成所(1930年)をはじめとする看護系の卒業生が一本化し、活動を始めました。その立ち上げメンバーの一人である私は、その後、第7期には理事、そして第8期には副会長として、その運営に深く携わってまいりました。

今回、会則で役員は2期までと定められておりますが、後任の会長候補者をご辞退された時、「このまま同窓会の歩みを止めるわけにはいかない」との強い思いから、この大役を引き受けることを決意いたしました。

私の原点、東京女子医科大学の教え

私にとって、東京女子医科大学で過ごした日々は人生の揺るぎない原点です。短大の校章に込められた「自由、創造、自己を見つめる」という精神と、「なぜどうして」と本質を問う教育が、今日の私のアイデンティティを確立する大きな力となり

ました。卒業後の現場経験、そして企業での多様な挑戦を通じて培われた実践力は、すべて東京女子医科大学での学びと実践に根差していると確信しております。

同窓会の現状とこれからの展望

同窓生の皆さまは100歳から18歳までと幅広く、また、執行部の構成も閉校校と現役校の比率が14対16となるなど、新たな世代が増えつつあります。私たちは、同窓会を維持していくために必要な活動を確実に行いながら、全国に広がる同窓生一人ひとりといかにつながっていくかを常に考えています。

皆さまの声を同窓会のこれからに活かすため、デジタルツールも積極的に活用し、コミュニケーションの機会を広げています。総会の投票率は0.5%から21.5%へと大きく向上しましたが、今後は30%超えを新たな目標とし、より多くの皆さまに会の意思決定にご参加いただきたいと願っております。

皆様への協力をお願い

第8期に掲げた「みえる、つながる、ひろがる」というキャッチフレーズを継承し、同窓生と会が互いにつながり、東京女子医科大学の看護の発展に貢献していくためには、皆様お一人おひとりの力が必要です。

すべての同窓生の皆様のご理解と、積極的なご参加、そして温かいご支援が不可欠です。特に、看護学部、看護専門学校、大学院といった若い世代の卒業生の皆様には、会のこれからを共につくる仲間として、さらなるご協力とご参加を心よりお願い申し上げます。

同窓生の皆様のご健勝とご多幸を祈念するとともに、東京女子医科大学看護系同窓会のさらなる発展を心から願い、私の会長就任のご挨拶とさせていただきます。

第9期特顧問および特別役員(会員) 就任ごあいさつ



『女子医科大学の 新生を目指して』

清水 治

学校法人 東京女子医科大学
理事長

看護系同窓会の皆様には、平素より学校法人の運営について、多大なご協力、ご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

貴同窓会におかれては、同窓生をつなぐ場として研究成果発表会や講演会などを積極的に開催されていることに深く敬意を表します。

本学では、元理事長に関わる不祥事を克服するため、昨年10月には理事、監事、評議員を一新しました。同12月には、女子医大の新生を目指して、ガバナンスの再構築、コンプライアンスの向上を目的として改善計画を策定・公表し、現在、教職員一丸となってその実行に取り組んでいます。具体的には、理事長への権限集中を排除し、学内理事が総務、財務等の担当を分担して業務を執行すること、常勤監事を設置し理事会の業務執行を監視すること、コンプライアンス規程、リスク管理規程の制定、学内のコミュニケーションを活発化するため説明会を随時開催すること等の改革を実行してきております。

また、7月には大幅な経常収支赤字を抱え、深刻な財務状

況から脱却し持続可能な大学病院の経営を確立するため、概ね3年度で経常収支赤字を解消するための中期収支計画を策定しました。

財務健全化の取り組みとして、学内横断タスクフォース(リバース・プロジェクト)を設置し、医療収入増、経費削減、人事資源の適正配分、意識改革の各面で具体的な改善策を提言するなど財務健全化に取り組んでいます。

また、元理事長の専横体制の下で教職員に対して心理的安全性の脅威が生じたことを反省して、理事会の下に設けられた風土改革委員会において実施したアンケート調査に基づき「心理的安全性確保の宣言」を策定しました。

第三者委員会報告書で指摘された不正行為等に関し元理事長をはじめ元役員に対する法的責任を厳正に追及してまいります。その一環として8月に出向者に対する人件費問題等に関し元理事長に対して総額2億5千万円の損害賠償請求訴訟を提起しました。その他の案件についても引き続き調査を進め、提訴等の対応をとってまいります。

また、上記の法的責任追及と並行して、元理事長の専横体制を招いたガバナンス機能不全を巡る学内における責任の所在を明確化するための検証作業を進めてまいります。

新しい女子医大において、建学の精神、理念に則り、優れた教育、研究、診療を学生、患者の皆さんに提供できますよう、最善を尽くしてまいりますので、引き続き皆様からのご支援ご協力をお願い申し上げます。



三谷 昌平

東京女子医科大学
学長

2025年4月1日に学長に就任しました。元々は、東京女子医科大学医学部で教授を務めておりました。私は1991年4月に当時の第二生理学講座に着任し、2024年3月末までの33年間の勤務の間、医学部の教育と研究に励んで参りました。医学部勤務中には教務委員長を務めました。その他に、公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構のCBT (Computer-Based Testing) 委員会の委員などを担当させていただき、医療系の大学での教育のあり方を学ぶ機会をいただきました。前者では学生さんの教育の充実への取り組み、後者では日本全国の医学部での公平公正な成績評価を行う仕組みの確立に取組みました。東京女子医科大学に戻って参りまして、看護学生さんの教育にも関わ

る機会をいただきました。医学と看護学は、科目としての学修内容には違いがありますが、患者さんや医療チームとの人間関係を構築しつつ自らの知識や技術を活用できることを日々の成長目標としていることには基本的な共通性が感じられます。医療という分野の重要なミッションを共有しつつ教えたり教えられたりしていることは最も重要なことであると改めて感じております。

今までに東京女子医科大学病院の患者さんから東京女子医大病院が好きであるという話を繰り返しお聞きしています。理由の多くは、東京女子医大病院の看護師さんが素晴らしいとのこと。いかに、本学の看護師さんが大学のイメージアップに貢献していただいているかを感じています。看護学部や看護専門学校での育成の中で「至誠と愛」が深く定着し、受け継がれてきたことを強く感じます。その精神が同窓会の活動にも感じます。6月に開催された看護系同窓会の研究会では、卒業生の研究発表をお聞きする機会がありました。勤務の傍で看護の仕事の質向上に取り組んでおられる姿は頼もしく、現在は厳しい環境下にある東京女子医大の再生が期待できる内容で、患者さんに尊敬感謝される業務が達成される希望を感じました。同窓会の益々のご発展を祈念いたしております。



吉武 久美子

東京女子医科大学
看護学部長

看護系同窓会会員の皆さまにおかれましては、日頃より本学の教育・研究活動にご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本学は1900年の創立以来、建学の理念である「至誠と愛」のもとに歩みを続け、女性の医学・看護教育を続け、女性の医学・看護教育の先駆として発展してまいりました。看護学部は1998年の設立から25年以上を経て、多くの卒業生を全国のみならず世界へと送り出しています。臨床や教育、研究、地域社会など、それぞれの場で活躍される皆さまの姿は、本学にとって大きな誇りであります。

近況として、看護学部では今年度より入試制度を見直し、総合

型選抜や一般選抜試験に面接を重視する方式を導入しました。看護に求められるのは知識や技術だけでなく、人と誠実に向き合い、対話を重ねる力です。そうした資質を備えた学生を迎え入れ、成長を支えてまいりたいと考えています。また、学生の声を反映し、本年度からユニフォームを新調しました。主体的に学ぶ姿勢や誇りを後押しする取り組みとして好評を得ております。

国際交流も活発に展開しています。韓国・梨花女子大学や米国・ハワイパシフィック大学から短期留学生を受け入れ、学生同士の交流を深めています。看護学部と附属3施設病院が連携し、臨床現場を含めた学びを提供していることは本学の大きな特色であり、異文化理解を通じて看護の新たな視点を獲得する貴重な機会となっています。

同窓会の皆さまのご支援とご厚情があつてこそ、看護学部は歩み続けることができます。今後も後輩たちを温かく見守り、励ましていただければ幸いです。引き続きご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。会員の皆さまのご健勝とご活躍を心より祈念いたします。



塩沢 俊一

東京女子医科大学附属
足立医療センター 病院長
東京女子医科大学
看護専門学校 学校長

このたび、2025年4月より東京女子医科大学看護専門学校の学校長を拝命しました。附属足立医療センター病院長の塩沢俊一です。

昨年11月より前任の内瀧安子先生から急遽、学校長代行として職務を引き継ぎ、看護師国家試験そして弥生記念講堂での卒業式と、学生と心ひとつにして歩んで参りました。この間には未来志向で入試委員会と称した戦略会議を初めて実施し、以下の3点を重点課題としました。第一に、安定的に看護専任教員を確保することです。本校が職業訓練校として教育の場である限り、まずは優秀な専任教員を揃え学生を迎え入れる必要があります。少人数での教育体制は過度の兼務から職員の離職、その結果は学生の

学習意欲の低下や精神的不安定を助長するという負の連鎖を生むため、教員の充足と業務の効率化は最重要課題と考えています。第二に、確実な実力をつけるための実効性ある国家試験対策です。最近の国試は「現代の社会背景をもとに看護の場で働く素養を備えているか」を問う問題が増えています。その意味でも、少子高齢化、医療と介護の連携、大規模自然災害といった本邦の抱える諸問題に取り組み議論するアウトプット重視の教育体制が必要です。第三に、学内(本学附属医療施設)就職率をいかに上げるか、そのために他校にない本校の看護実習の強みを実感できる教育の整備です。3年間の学習を修了し、教育の背景には本学の理念「至誠と愛」があり、それは「相手のために行動し支えること」、それこそが看護の本質であることに気付いてもらえれば、私たち教職員も一つの大事な役目を果たし終えたといえるでしょう。

本校は昭和5年12月に開校し今年で95年目を迎える伝統校であります。その名に恥じぬよう教職員一同、目標を定め邁進していく所存です。本学看護系同窓会の皆さまにおかれましては、今後とも温かいご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



西村 勝治

東京女子医科大学病院 病院長

2024年12月6日付で病院長に任命されました、西村勝治と申します。専門は精神医学です。

このたび、法人の体制が刷新され、当院は「新生 東京女子医科大学病院」として、新たなスタートを切りました。これまで多くの皆さまにご心配とご迷惑をおかけしましたこと、深くお詫び申し上げます。私たちはこれらの経験を真摯に受け止め、過去を教訓として、未来に向けて強い決意を胸に再出発いたしました。今後は、皆さまからの信頼を再構築するため、全力を尽くしてまいります。

現在、私たちは「医療を提供する目的とは何か」「どのような病院であり続けるべきか」を改めて問い直し、その答えを追求しています。この責任を果たすためには、「新生 東京女子医科大学病

院」としての確固たるフィロソフィーが必要です。そこで、まず、病院のすべての職員と共に、基本理念と基本方針を見直すことから始めました。東京女子医科大学の創立理念である「至誠と愛」の精神に立ち返り、私たちの使命、目指す病院像、そして大切にすべき価値観を再確認しました（「新生 東京女子医科大学病院のミッション、ビジョン、バリュー」）。これらの理念を基盤に、私たちは一丸となって共通の方向に向かって邁進してまいります。

私たちの使命は、社会から信頼される高度な医療を提供する大学病院として、すべての人々の生命と健康を守ることです。これを実現するために、高水準の医療安全と最新の医療技術を追求し、患者一人ひとりに最善の医療を提供することを目指します。また、すべての職員が医療人としての誇りと責任を持ち、患者さんやそのご家族と共に成長し続けることを強く決意しています。

当院には高度で専門性の高い治療を適切に提供するために約50の診療科があります。そのすべての医療現場を、看護職の皆様が献身的かつ確実に支えてくださっていることに深く敬意を表します。

結びになりますが、東京女子医科大学看護系同窓会の皆様方そして関係の方々の今後益々のご健勝とご多幸を祈念いたします。



片桐 聡

東京女子医科大学附属
八千代医療センター 病院長

新井田達雄先生から引き継ぎました、片桐聡と申します。東京女子医科大学には卒後から36年間の長きにわたりお世話になっており、八千代医療センターには本院から異動して10年経ちました。

当院は2006年12月に開院してから19年が経過しています。2022年には病床拡張、今の500床になり、救急搬送対応ヘリポート、SCU、がん関連病棟も併設しました。当センターは八千代市及び千葉東葛南部の中核病院としての地域密着型医療を展開しつつ、大学附属病院としての先進医療も進めていることが特徴

です。ロボット支援手術は消化器外科、泌尿器科で年間100例を超える症例を経験しています。腎移植は全国的にも有数の施設で、脳血管障害に対する症例数も急速に増加しており当院の新たな強み・長所になっています。一方、設立時より地域からの開設の要望が強かった救急医療、小児・周産期医療は当院の基盤になっています。

現在、臨床研修指定病院、総合周産期母子医療センター、地域災害拠点病院、がん診療連携協力病院、救命救急センター、小児救命救急センターなどの認定を受けています。今後も成人医療と小児周産期医療、救急医療における千葉県の中核病院として広域性・公益性を担いながら地域包括型医療を行っていきます。厚生労働省が掲げた「2040年を見据えた新たな地域医療構想」に則した病院機能を目指し、対話を重視して地域と共にOne Teamを形成し、安心して医療を受けることができる環境を作っていきます。

八千代医療センターに、今後尚一層のご支援・ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2024年度同窓会賞受賞者 近況報告

※詳細はHP会員専用ページ

- 患者さんの思いにどう応えるか -



脳外科集中治療室配属から5ヶ月。日々の業務に慣れてきた中で、心が痛む出来事がありました。梗塞拡大で車椅子トイレからベッド上安静・おむつ着用となった患者さんから「トイレに行きたいです」と言われました。「そうですね、トイレに行きたいですね」と思いを受け止め、医師の指示を説明し、リハビリでの目標を伝えました。しかし「おむつにしてください」と言うことが本当に辛く、患者さんのプライドや尊厳を思うと、もっとふさわしい言葉はないかと、今も考えています。

正解はないかもしれませんが、こうした葛藤を大切にしながら、患者さんの気持ちに真に寄り添える看護師を目指し、言葉の一つひとつを大切にしていきたいです。

看護専門学校2024年度卒28回生 濱野 愛

- 点と線を繋ぎ、立体的な看護を目指して -



3つの診療科がある混合病棟に配属され奮闘中です。様々な疾患の患者さんを受け持ち、必死に勉強していますが、知識をアセスメントに活かせないことが悩みでした。

先輩に相談すると「勉強内容が点で繋がっていない。線になれば良い看護ができる」とアドバイスを受けました。まさにその通りで、病名や技術を個別に覚えていても、それらがまだ点で存在し、繋がっていません。学生時代は関連図で理解していましたが、今は頭の中で瞬時に組み立てる必要があります。点を線に、線を面に、患者さんを立体的に捉えられるよう自分なりの方法を見つけ、患者さんのための看護を第一に成長していきたいです。

看護学部2024年度卒24回生 杉浦 向日葵

小児ボランティアOHANA

～ 子どもの笑顔と未来をともにつくる”家族”～

看護学部活動紹介

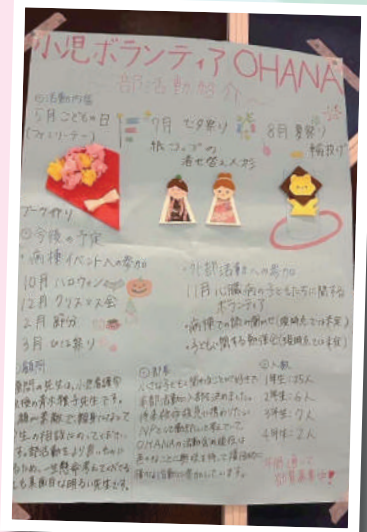
「OHANA(おはな)」は、ハワイ語で“家族”を意味する言葉を由来とする、子どもとともに歩む部活動です。病気をもつ子どもたちに遊びを通して笑顔届け、成長・発達を支えることを目的に活動しています。そして子どもやご家族にとって、もうひとつの“家族”のような存在でありたいと願っています。

OHANAは、2005年「腎小児ボランティア」として誕生し、最初の活動は病棟での「夏祭り」でした。当時、小児病棟で入院中の子どもたちを対象にした夏祭りの開催は画期的で、多くの子どもたちの笑顔に出会いました。その経験に基づき、活動は小児全体へと広がり、同好会から部活動へと発展し、「小児ボランティア・OHANA」となりました。

現在は、病棟での遊びや絵本の読み聞かせ、こどもの日・七夕・夏祭り・ハロウィン・クリスマスなどの行事を企画・運営しています。行事は看護スタッフや保育士と協力しながら、子どもと家族が楽しめるよう工夫を重ねており、クオリティが高いと好評を頂いています。さらに患者会では病気をもちながら地域で生活する子どもの保育も担い、病院の外にも活動の輪を広げています。企画から実施までを部員自身が考え、多領域の関係者と調整しながら進める経験は、部員たちの看護観やartsを拓く大きな学びとなっています。

OHANAは、代々の先輩たちの熱意によって築かれてきました。その歴史を引き継ぎながら、子どもの輝きを引き出し創り続けていくことでしょう。子どもと家族に、そして、未来の部員にも、OHANAの扉はいつでも開かれています。

青木雅子 OHANA顧問 東京女子医科大学看護学部



● 部員からのメッセージ

「笑顔が活動の原動力」看護学部4年 清水未裕(2024年度部長)

多様な考えを持つ部員をまとめる難しさもありますが、活動中の子どもたちや親御さんの笑顔を見ると、この活動を続けていきたいと強く思います。

「自分たちで創り上げる醍醐味」看護学部4年 福本息吹(2024年度会計)

企画から実行まで、すべて自分たちで考えて形にしていける。予算管理や周りとの調整など大変なこともありますが、それが大学部活の楽しさだと思います。

「子どもたちから学ぶ日々」看護学部3年 般若菜々(2025年度部長)

製作活動で見せる子どもたちの自由な発想や前向きな姿勢に、いつも刺激を受けています。部長として大変なこともありますが、活動が形になったときの喜びは格別です。



『 再会の笑顔、未来への力に！ 看専28回生ホームカミングデー 』

2025年6月21日、懐かしの学び舎に28回生の笑顔が集結しました！先生方が開いてくれたホームカミングデーには30名以上の仲間が駆けつけ、会場は一気に華やかな雰囲気になりました。

一人ひとりの近況報告に「すごい！」と刺激をもらい、白熱の「軽食争奪ジャンケン大会」では大笑い！お菓子を片手に、今の悩みや学生時代の思い出を語り合えば、あっという間の楽しい時間でした。

みんなの頑張る姿に元気をもらい、私も「明日からまた頑張ろう！」とたくさんのエネルギーをもらいました。勉強や実習と一緒に乗り越えた仲間との時間は、やっぱり特別で、その大切さを再確認できた一日でした。



(看護専門学校2024年卒 28回生代表 石田 梨恋)

研究助成制度紹介 & 2025年度研究助成二次募集のご案内

看護系同窓会の助成金制度のご案内 詳細はホームページ「各種助成金」参照

2020年から10件の研究を支援し、看護の質向上に貢献しています。

研究助成の趣旨

本研究助成は、看護の質の向上に貢献する研究の推進において、研究費用の一部を助成し、人々の健康増進と看護学の発展に寄与することを目的とする

応募者の条件

- 1) 研究申請者(代表者)は東京女子医科大学看護系同窓会会員・学生会員
- 2) 研究代表者および共同研究者は、看護実践ならびに教育に携わる者または看護系大学院など研究機関に所属する者

応募期間：毎年、2月上旬～4月上旬 ※二次募集の有無はホームページに掲載
毎年ホームページお知らせに掲載

助成金額：上限30万円(審査あり)

同窓会研究助成制度のおすすめポイント

- ① **申請**：研究代表者が同窓生であれば、共同研究者は同窓生でなくてもよい
- ② **相談場所の確保**：申請前から相談可能
- ③ **使用用途**：専門家や他分野の方への相談料にも活用可能
- ④ **期間**：2年間かけてじっくり研究に取り組める
- ⑤ **成果発表**：学会発表のみで可

第二次公募2025年度 同窓会研究助成のご案内

東京女子医科大学看護系同窓会

応募期間2025.10.1(月)～11.30(木) 21:00

2025年度の看護系同窓会研究助成の二次募集を開始いたします。代表者が会員であれば応募できます。以下、概要をご確認の上、ぜひご応募ください。

▼応募資格

- 本同窓会会員(学生会員含む)
- 終身会費を納入済みの方
- 東京女子医科大学に所属していない方も応募可

▼助成内容

- 助成金額：最大30万円 ※審査結果により助成額は異なります
- 審査方法：書類選考

▼応募方法

1. 公式HPにアクセス (以下のQRコード)
2. メニュー「各種助成」→「研究助成」を選択
3. 応募要領を確認の上、必要書類を提出

皆様の積極的な応募をお待ちしております。なお、本研究助成の公募は毎年同時期に実施しておりますが、今年度実施した場合の応募をご検討ください。



【問い合わせ先】
東京女子医科大学看護系同窓会事務局
住所：〒158-8501 東京都目黒区目黒3-1-1 東京女子医科大学
TEL：03-4267-4800 看護系同窓会課 TEL：03-4267-4801 学生会務課
Eメール：office@nurse-musing-as.jp



研究助成者の成果発表 5題

座長 青木 雅子 (看護学部小児看護学教授)

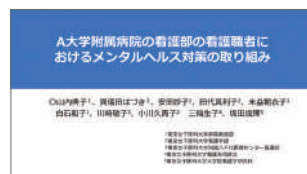


2020年度研究助成制度改定後に、本研究助成金を活用して研究を行った方々に発表いただきました。発表内容は、ホームページ【会員専用】総会資料をご覧ください。

※PWは毎年5月に変更します



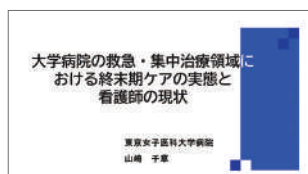
山内 典子 2021年度



質問紙作成からデータ整備まで順調に進み、フィードバックフォーマット作成においてもご支援をいただいたことで、職場などへの迅速な結果還元と一部の継続的フォローに繋がりました。



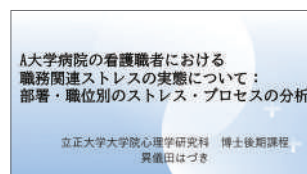
山崎 千草 2020年度



専門家に相談しながら安心して研究を進め、様々な仮説検証を通じて研究の面白さを実感するとともに、心理的ストレスへの理解を深めることができました。



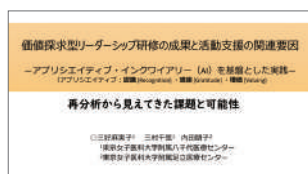
異儀田はづき 2021年度



統計的調査研究の経験が浅い中、質問紙の作成・実施からデータ入力までを着実に進め、専門家による分析指導を受けることで、短期間での学会発表を達成しました。



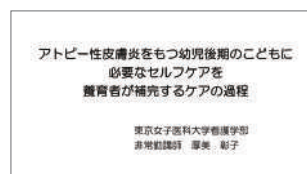
三好 麻実子 2020年度



一度導いた結論について専門家からアドバイスをいただき、分析方法を見直した結果、当初とは異なる知見が得られ、新たな視点の発見に繋がりました。



厚美 彰子 2021年度



異分野の専門家との対話から、分野間コミュニケーションの難しさを学ぶとともに視野が広がり、再提出の機会を通じて申請書の作成能力も向上しました。

総会後記

今回の総会にご参加いただき、誠にありがとうございました。研究発表と記念講演を通じて貴重な知見が得られ、また当会の研究助成が金銭的支援に留まらない多角的なサポートであることを共有いたしました。一方で、改善すべき点もいくつか明らかになりました。一部発表での資料不足により参加者の皆様にご不便をおかけした点は真摯に受け止めております。また、示唆に富む記念講演への参加者が少なかったことも大きな反省点です。これらの課題を踏まえ、来年はより多くの皆様にご参加いただけるよう、同窓生の皆様のお力添えもいただきながら、企画運営の改善に努めてまいります。末筆ながら、ご参列いただきました理事長・学長・法人理事・看護学部長・看護専門学校校長・主事には、研究成果発表に対して積極的なご質問や貴重なご意見を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

第25回定例総会担当理事 三好 麻実子(短大24回生)

掲 示 板

看護系同窓会からのお知らせ

下線・QRコードはハイパーリンク

東京女子医科大学看護系同窓会定例総会

第26回開催予告

日 程：2026年6月27日(第4土曜日)

場 所：東京女子医科大学弥生記念講堂

開催形式：対面(※懇親会開催予定)

特別講演：朝比奈 秋さん(医師・作家)

2024年度171回芥川賞受賞

受賞作『サンショウウオの四十九日』



みなさまの
お待ちして
おります

朝比奈秋 作品一覧	書籍タイトル	発行年	受賞名
1	塩の道	デビュー作 2021年	第7回 林芙美子文学賞
2	私の盲端	2022年	
3	植物少女	2023年	第36回 三島由紀夫賞
4	あなたの燃える左手で	2023年	第51回 泉鏡花文学賞
5	サンショウウオの四十九日	2024年	第45回 野間文芸新人賞
6	夜明けのカルテ 医師作家アンソロジー	短編 2024年	第171回 芥川龍之介賞
7	受け手のない祈り	2025年	
8	ロイヤルホストで夜まで語りたい	エッセイ 2025年	

同窓会オリジナルグッズ販売

ホームページからお申込みください

新規商品

◇ワインレッドコンビバッグ
(M) 500円

◇不透明ファイル 400円
(A4見開き赤・青・白)

◇エコバッグ 200円
(グレー・ターコイズ)

◇ロゴなしモバイルバッテリー 500円(原価:1000円)



ホームページへ写真館掲載記事・写真募集

母校ゆかりの懐かしい写真や思い出の品、エピソードを募集しています。
ご寄贈いただける方は、ホームページ「お問い合わせ」からご連絡ください。

【会員専用PWは毎年変更】

東京女子医科大学看護職員募集

『新生女子医大 共に創る仲間募集！』 ～ご紹介も歓迎～

雇用形態：正職員・臨時職員
職種：看護師・診療看護師募集

「領域は希望に沿います」
「勤務時間・勤務地は要相談」

※ポスター・QRコード参照



【問い合わせ先】看護職雇用推進室

✉ recruit-nurse.bm@twmu.ac.jp ☎ 03-5269-7462



看護専門学校教員募集

『看護教育を共に創る仲間募集！』

東京女子医科大学看護専門学校
教員募集のお知らせ



- 経験・専門領域、希望を配慮した業務
- 教育未経験者へのフォロー
- 1学年3人体制・柔軟に対応
- 65歳まで正職員で常勤可能

【問い合わせ先】✉ Jimu.cf@twmu.ac.jp ☎ 03-3857-0120

法人寄付金のお願い

寄付の種類:

・大学環境整備等へのご寄付 ・奨学寄付のお願い ・創立120周年募金125周年に向けてのご寄付 ・遺贈による寄付、【ふるさと納税】制度による東京女子医科大学への寄付 etc.

※詳細はQRコードよりご確認ください



東京女子医科大学図書館利用ご案内

学外同窓会員:会員証必要

【会員証申込方法】HP「お問い合わせ」より、件名「会員証発行依頼」
氏名(現姓/旧姓)・生年月日・卒業校・卒年を記載

※図書館HPで利用規定をご確認ください

東京女子医科大学看護学会

入会のご案内

本会は、会員の相互の学術的研鑽と交流を図り、看護学の発展を目指すことを目的としています。本学会の発展にお力添えをお願いするとともに、皆様の入会を心よりお待ちしております。
※詳細はQRコードよりご確認ください。



看護学会第22回学術集会のご案内

日 時:2026年10月3日(土)

会 場:弥生記念講堂ほか(対面開催)

大会長:町田貴絵(東京女子医科大学看護学部教授)

テーマ:「チームを育む対話力ー伝える、聴ける、共に歩む」

※ 詳細は看護学会ホームページにてご確認ください

大学院看護学研究科募集

応募期間

第1期:7月頃
第2期:12月頃

※ 詳細はQRコードよりご確認ください



連絡先 変更届

★★★送料値上げに伴い送料削減のため、メール登録をお願いいたします★★★

本会では、ご案内(総会のお知らせ・会報etc.)をペーパーレス化・業務効率・コスト削減の3つの観点から、メール配信に変更いただけますよう、ご協力お願いしております。ホームページ《住所変更届》または左記のQRコードより、ご登録をお願いいたします。



編集後記

会報誌第25号をお読みいただき、ありがとうございます。第9期体制として初めての会報誌を、無事に皆さまのお手元にお届けできてほっとしております。表紙もリニューアルし、新体制のスタートをお伝えすることができました。今号では、総会報告、看護学部の部活動紹介、看護専門学校ホームカミングデイの様子を特集として掲載いたしました。第8期から受け継いだ『あなたのそばに同窓会「みえる・つながる・ひろがる」』というキャッチフレーズが、少しずつ形になってきたように感じています。

10名の新理事を迎え、研究助成制度による支援も着実に成果を上げています。紙面に収まりきらなかった記事や写真は、ホームページの会員専用ページでお楽しみいただけます。今後も会員の皆さまとのつながりを大切に、同窓会活動の輪をさらに広げてまいります。連絡先不明の卒業生をご存知でしたら、ホームページからの登録をお勧めください。今回の制作にご協力いただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。【会報担当プロジェクト】